

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171600176		
法人名	有限会社 佑紀苑		
事業所名	グループホーム 佑紀苑		
所在地	佐賀県杵島郡白石町大字福富下分2887番地 (電 話) 0952-71-7120		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年3月24日	評価確定日	平成 20年4月22日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 人	

(2)建物概要

建物構造	木造瓦葺
	2 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,240	円	その他の経費(月額)		円	
敷金	有()円		無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円		有りの場合 償却の有無	有／無		
食材料費	朝食		円	昼食		円
	夕食		円	おやつ		円
	または1日当たり		800円			

(4)利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数		5 名	男性	1 名	女性	4 名
要介護1		1	名	要介護2	2	名
要介護3		2	名	要介護4		名
要介護5			名	要支援2		名
年齢	平均	80 歳	最低	70 歳	最高	89 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	カタフチ医院 ・ 白石共立病院 ・ まつお歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐賀県白石町の有明海の近くに位置し、大きな日本庭園のある改築型で1ユニットのグループホームである。地元に住んでいる職員が、お楽しみ会などのグループホームの行事を地域の人々に声を掛け参加してもらったり、地域の敬老会や文化祭、清掃に積極的に参加したり、散歩中にも声を掛けてもらったりと、地域の中の一つの家として、地域の中に浸透しているグループホームである。日々の生活場面の中で、入居者と職員だけでなく、入居者同士でも共に支え合う関係が築かれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
①	外部評価の結果は、毎月1回のケア会議や申し送りなどで話し合いを行い、改善に向けての取り組みがなされている。
②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を行うことで、サービスの質の向上に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
③	3ヶ月に1回程度の開催で、期間中の行事や出来事、入居者の状態や職員の活動などの報告がなされ、情報を得るなど意見の交換は出来ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
④	家族の面会時などに、日常生活の様子や体調が悪い時などの随時の報告はなされている。今後は、随時の報告だけでなく、便りなどによる定期的報告も行うことで、より家族との信頼や協力関係が築かれることが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
⑤	地域の敬老会や文化祭、清掃に積極的に参加している。また、地元に住んでいる職員が、お楽しみ会などのグループホームの行事を地域の人々に声をかけて参加してもらったり、散歩中に地域の人々から声を掛けてもらうなどの交流が行なわれている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中の一つの家として、やすらぎと安心の楽しい生活を私たちとご一緒にしよう」という、地域密着型サービスとしての役割を目指した独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関と居間に理念を掲示し、日々の申し送りやミーティングの時にも、理念の下に業務が遂行されているか確認し合うようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会や文化祭、清掃活動に積極的に参加している。また、地元に住んでいる職員が、お楽しみ会などのグループホームの行事を地域の人々に声かけし、参加してもらったり、散歩中に地域の人々から声を掛けてもらうなどの交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことで、サービスの質の向上に努めている。また、外部評価の結果は、毎月1回のケア会議や申し送りなどで話し合いを行い、改善に向けての取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回程度の開催で、期間中の行事や出来事、入居者の状態や職員の活動などの報告がなされ、情報を得るなど意見の交換が出来ている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者と課題解決を図っていく体制は築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時などに、日常生活の様子や体調が悪い時などの随時の報告がなされている。	○	随時の報告だけでなく、便りなどによる定期の報告も行うことで、より家族との信頼や協力関係が築かれることが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族の面会時には、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。また、意見や要望については、ミーティングや申し送りなどで、職員全員に周知している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限に抑える努力がみられ、やむを得ない場合も、他の職員が補うなど入居者のダメージを防ぐ配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、希望に沿った研修に意欲的に参加している。研修後は、ミーティングやケア会議で内容を報告し、情報の共有が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームや宅老所、福祉施設との交流や訪問などで意見を交換し合うことで、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	3日程度の体験入居をしてもらったり、必ず本人が来て納得したうえで入居してもらうなど、安心して納得しながらサービスを利用できる工夫がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の用意や家事手伝い、畑作りなどといった場面で、入居者と職員、または、入居者同士でも共に支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、顔の表情や言葉、落ち着き具合などで、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、その人らしい生活が出来るように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聴き、かかりつけ医の意見を含めて課題となる事を職員全員で話し合い、介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人や家族と十分に話し合い、定期または随時に現状に即した新たな介護計画が作成されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院など必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、訪問診療や緊急時の対応など、協力医療機関とは密な関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病状に変化が生じたときは、速やかに家族やかかりつけ医に連絡が行われている。	○	重度化や終末期に対する対応方針を定め、出来るだけ早期から話し合いの機会を作り、その時々本人・家族の意向を確認しながら、対応方針の共有を図っていくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけがなされている。また、職員全員に個人情報の取り扱いについて教育がなされ、記録も厳重に保管されるなど、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや散歩など、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物に、出来る限り入居者にも同行してもらっている。また、食材切りや盛り付け、後片付けなどを入居者と共に行い、一緒に食事を味わいながら、入居者にとって食事が楽しいものになるような支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるような支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、掃除、草取りなど入居者の経験や知恵を発揮する場面づくりがなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望や体調に応じて、戸外への散歩あるいはドライブなどに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉にセンサーが取付けてあるが、センサーだけに頼ることなく、見守りや気配りで、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、昼間を想定した避難訓練がなされている。	○	今後は、定期的に訓練を実施し、夜間を想定した避難訓練も行い、いざという時に慌てず確実な避難誘導が出来るように備えていくことが期待される。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎日チェック表で確認されている。インシュリンを使用している入居者には、糖分の摂取量を調節するなどの柔軟な対応が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビングには、外出先での写真や入居者の絵、書などが飾っており、居心地よく過ごせる工夫がみられる。また、陽射しが強い時には、カーテンを使って、明るさに配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた調度品が持ち込まれ、居心地のよさに配慮している。		